

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170502397		
法人名	有限会社 レストケア		
事業所名	グループホーム びーぶるマルシェ (A)		
所在地	札幌市南区川沿16条2丁目4番17号		
自己評価作成日	平成29年1月20日	評価結果市町村受理日	平成29年3月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家族様の要望により看取り介護を行っている。日常生活での医療、緊急時には当ホームと連携している協力医療機関と24時間体制で対応している。個々の特性を生かし、個別対応に心掛けている。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani%2Fue&JigvosyoCd=0170502397-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット
所在地	札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401
訪問調査日	平成29年2月16日

札幌市郊外の自然に恵まれた閑静な住宅地に立地している2ユニットの事業所である。近隣には大型店やバス停があり利便性が良い。室内は明るく清潔で安全、快適に過ごせるよう環境整備をしている。法人代表が医療従事者の経験をもち、提携協力医療機関と24時間体制での連携が確立していることは、利用者、家族の安心、信頼に繋がっている。家族の希望に沿い看取りケアを実施している。職員は事故予防、感染予防、虐待防止などの委員会に所属し、良好なチームワークのもと、研修や討議を重ね、利用者の生活の質の向上をはかっている。家族には定期的に「通信」や「便り」を送付し生活状況を報告し、事業所主催のイベントには共に楽しむよう配慮している。地域の人々とは、災害時避難訓練の協力や、事業所行事の参加で交流を深めている。地域に根ざし、利用者一人ひとりが人格を尊重され、安心と安らぎのある生活を送れるよう支援している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者及び職員は、理念を理解し日々の介護に生かせる様努力している。毎日の申し送りに復唱している	「人格の尊重、安心と尊厳ある生活、安らぎと自信のある生活、地域交流」を理念とし、事業所内に掲示しパンフレットに掲載している。管理者及び職員は毎日の申し送り時に復唱し、理念を共有し実践に努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方とお会いした際には積極的に挨拶をしている。ホーム内の行事に地域の方に参加して頂ける様案内をさせて頂いている。	町内会に加入し、地域の事業所として親しまれている。ホーム内行事をポスターやチラシで案内し、夏祭りや敬老会、クリスマスなどには地域の人々が参加し共に楽しんでいる。ボランティア訪問も受け入れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	年1回広報を発行し活動内容知らせたり、町内会行事に参加し地域の方々に理解を得る様努力している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的開催し利用者様の活動状況を報告し、ご意見等参考にしてサービス向上に努めている。	会議は定例に開催し、地域包括支援センター、町内会福祉部長、地域住民、家族が参加している。利用者の生活状況などが話し合わせ、討議内容はサービス向上に活かしている。議事録は家族に送付している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市、区の主催する研修会、交流会に積極的に参加して協力関係が築ける様努力している。	市町村担当課とは日頃から連絡を取り、報告、相談などを行い協力関係を築いている。管理者は市や区主催の会議や研修会に出席するなど、行政と共にサービス向上に努めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を設置し毎月の会議に報告してもらい、職員間で話し合い検討している。外部の研修会等へ参加し身体拘束のないケアに取り組んでいる。	身体拘束廃止委員会を設置し、身体拘束のないケアを実施している。グループホーム協会や行政主催の外部研修会に出席し、内部研修を行い、マニュアルを整備し、職員の認識の共有をはかりケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会を設置し全体会議にて報告、職員の意見を求め話し合い虐待防止に取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者及び職員は研修会に参加し話し合いの場を持ち活用出来る様支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	文章をもとに説明をして疑問点を尋ね理解を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議、面会等で意見、要望を聞き話しやすい雰囲気作りをしている。	日頃の会話などから、意見や要望を聴きとっている。アンケート調査を実施し意見箱を設置している。「マルシェ通信」や「便り」で生活状況を報せ、利用者、家族の意見は運営に反映させている。外部への苦情受付機関を明示している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議やユニットカンファレンスで意見、提案を聞き反映させている。	法人代表者は管理者と共に全体会議やカンファレンスに参加し職員の意見や要望を聞いている。各職員の意見が運営に反映されるように行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者、管理者は職員個々の実績、勤務状況を把握し各自の個性が活かせるような環境作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修、内部研修に参加し研修記録にまとめ、全体会議で報告している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者、職員は各種研修会に参加し、同業者との交流を持ちサービスの質の向上につなげる様に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	不安、要望等傾聴し安心、信頼できる関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の不安、要望を傾聴し安心してもらえるような関係作りが出来る様努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族様の思いや心配していることを傾聴し安心してもらえる様支援している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は利用者個々のペースに合わせ出来る事、出来ない事を知り尊重し支援できる関係を大切にしている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族との連携を取り、利用者の日々の生活状況を話し家族と共に支えている関係を大切にしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族、親類、知人の面会やお手紙を通じ関係が絶える事の無い様努めている。	家族や知人来訪の折は、利用者と共にゆっくり寛げるように配慮している。馴染みの人への電話や手紙、年賀状送付を支援し、事業所行事には家族や友人も共に楽しめるよう行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し孤立せず関わり合い、支え合えるような環境、場面作りをしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も必要に応じてご家族様の相談、支援、医療機関との連携により関係を断ち切らない付き合いをしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様の生活歴、暮らし方の希望、ご家族様からの情報等、ご本人の意思に添える様把握に努めている。	利用者の表情や動作、日頃の会話から意向を把握している。困難な場合は家族の話や生活歴から把握し、職員で情報を共有し、本人の希望に添うように検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴やなじみの暮らしについてご本人、ご家族、知人から話を聞きこれまでのサービス利用の経過の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝のスキンシップやバイタル測定を通じて心身状態を把握し生活記録の情報等、総合的に判断するよう努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者の希望、家族からの意見、要望を基にカンファレンスで話し合い現状に即した介護計画を作成している。	介護計画は本人、家族の意向や要望を聞き、カンファレンスで職員全員で話し合い、管理者、介護支援専門員が中心になり作成している。3カ月ごとにモニタリングを行い、必要時には随時見直し現状に即して作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子、気づきを生活記録に記入し職員間で情報を共有し介護計画を作成している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族の要望に応じ一時帰宅、外泊等柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会に加入し町内会の行事に参加したり、ホームの行事も地域の方に案内を送ったりして参加して頂いている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人のかかりつけ医を大切にし納得して診療を受けられている。変化があれば主治医に連絡をし受診している。その都度ご家族に連絡をしている。	内科医の訪問診療が月2回、歯科医の訪問が月1回が行われている。本人希望のかかりつけ医や他科受診については連絡、通院など支援している。緊急時を含め24時間体制で医療機関と連絡をとり、相談し対応することができる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師と情報を共有し利用者の健康管理をしている。状況に応じて指示を得て適切な受診を受けられる様支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者と情報交換に努め利用者及びご家族様に安心して頂ける様な関係作りに努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化及び終末期のあり方について早い段階でご家族様と話し合いホームの支援について共有、ご理解して頂く努力をしている。	終末期のケア対応については、早い段階で本人、家族と話し合い「看取り指針」を基に家族と本人の理解と同意を得て文書で確認している。状況変化時には医師、看護師、家族、職員と情報を共有し家族の希望に沿い看取りを実施している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応マニュアルを作成し初期対応や連絡体制を整えている。全体会議にて定期的研修もしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を行い利用者が安全に避難出来るよう努めている。又地域の方々にも非常時に協力して頂ける様お願いしている。	消防署指導のもと年2回避難訓練を実施している。訓練には地域の人々の参加協力を得ている。火災防止について施設設備を整え、また、非常時に備え水、食料品の備蓄を行っている。	火災や自然災害発生時には安全に避難できるように訓練している。近隣の同法人グループホームとの協力について考慮しているので期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格や誇り、プライバシーを尊重した言葉かけや対応をするよう努めている。	利用者の人格を尊重して言葉遣いに配慮して対応している。個人写真の掲載は家族の許可を得るようにし、個人情報記載書類の取り扱いや保管に配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個々の思いを自己決定出来る様能力に合わせて行い納得出来るよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のペースに合わせ、毎日が心地よく過ごせる様支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	清潔に気を配り、身だしなみを整えおしゃれ出来る様努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の出来る事を活かし、職員と一緒に準備や片付けを行っている。	利用者の希望を聞き、行事食のメニューに取り入れている。利用者は食事の下ごしらえや食器拭きなど職員と共に行っている。食堂に音楽を流し環境を整え、食事が楽しめるように支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	外部栄養士による献立を採用し栄養バランス、水分量を確保出来るように努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行いその人の口腔状態に合ったケアを行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、失敗を減らす様声掛けを行い気持ちよく排泄出来る様支援している。	個々の排泄パターンを把握し、さりげなく声掛けを行い、トイレでの自立排泄に向けて支援している。布パンツ利用を目標にしているが、個々の身体機能に合わせリハビリパンツなど適切に使用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の原因、影響を理解し毎日の排泄チェックを記録に残し排泄パターンを把握し、歩行運動、水分補給で予防に取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人一人の希望やタイミングで気持ち良く安心して入浴して頂ける様支援している。	週2回以上入浴できるように支援している。希望やタイミング、体調に配慮して清拭やシャワー浴も実施している。2人介助も行い、安全に配慮している。浴室は清潔で衛生的である。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼食後に休息としているが、その時々状況に応じて無理なく生活出来る様支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋に目を通し服薬の支援を行い病状の変化の発見に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の出来る事を把握し、役割やゲームなど行い楽しく生活出来る様支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人一人の希望に応じて外出や散歩、買い物など出かけられる様支援している。	事業所は外出行事として花見や紅葉狩り、外食などを計画実施し、戸外に出かけ、利用者の生活の活性化に努めている。日常的には、一人ひとりの希望に応じて、近隣の散歩や買い物に同行し支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物に行った際、本人の能力に応じた使い方が出来る様支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に応じて電話や手紙が出せる様支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は心地よく過ごせる様に配慮し壁などに季節、月々に合わせた装飾をしたり利用者の作品を飾るなどの工夫をしている。	共有空間は全て掃除が行き届き清潔で気持ち良く環境整備されている。居間には季節に合わせた飾り物を置き、利用者の作品が飾られ、窓の景色から季節の移ろいを感じとることができる。室温、湿度、換気、採光も適切で騒音もなく、利用者は居心地よく過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個々の席以外にソファを置いたり独りで過ごしたい時には椅子を置くなど工夫をしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人の馴染みの物を置いたり使い慣れたものを使用したり、ご家族と相談しながら居心地良く過ごせる様工夫している。	居室には馴染みの家具を持ち込み、思い出の写真や書道作品などを飾り、自分らしく、居心地よく過ごせるように工夫している。出窓があり採光に恵まれ明るく、程よく整頓されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご本人が出来る事をなるべく行ってもらい自立した生活が送れるよう工夫している。		